

みの森林塾 開講しました。



「みの森林塾」(美濃市主催)の活動の様子。(美濃市以安寺山)

とまっぴ



新しき柚人たちの羅針盤

第 7 号

NPO 法人 木の杜 学舎

〒501-3781 美濃市片知 1109-4
森づくり片知支援センター内

TEL&FAX 0575-37-2115

URL: <http://www.somanomori.or.jp/>
e-mail: info@somanomori.or.jp

万博の森から

愛地球博「森の自然学校」インタープリター

小泉信太郎



雨上がりのみずみずしい緑を背景にモチツツジの紅とハリエンジュの白が輝き、梢のあちらこちらから夏鳥たちのさえずりが聞こえてくる。ここは 2005 年日本国際博覧会「愛・地球博」会場内に残された森の中。会場全体を包むある種お祭りのような雰囲気とは少し違った時間が流れている。

「自然の叡智」をメインテーマとする愛・地球博では、自然そのものをパビリオンとして自然を体感してもらえよう「森の自然学校」が開かれており、ここで私は日々姿を変えていく森をお客様に紹介しています。この仕事が決まったときに私は万博に来る多くの人に森の魅力を

紹介し、森を好きになってもらって森を守る応援団を一人でも増やそうと意気込んでいました。



子どもたちを森へ案内する小泉さん

それは木の杜学舎が進めている人工林の間伐推進に側面からの力になるだろうという思いでもありました。それでどのようにすればお客様的心をつかめるかあれやこれやと考えていたのですが、そんな小細工をするまでもありませんでした。人気パビリオンの入場待ちや昼食を求めるための行列に並び疲れたり炎天下の会場を歩き疲れたりといったお客様が、ふと立ち寄った森の中で癒されています。そういったお客様「気持ちよかった」、「きれいだった」という

感想を耳にする度に、私自身が再度、森の素晴らしさ、森の持つ力といったことに気づかされています。

森は今新緑の美しさがピークを迎えており、冒頭に紹介した花に加えガズミ、ウツギ、サワフタギなどが咲いています。季節が進めばネジキやリョウブの花も咲き始めます。また9月からは柚の杜学舎の地元、美濃市の名物あかりアート展(愛・地球博バージョン)が開催されるそうです。皆様ぜひ一度愛・地球博にお出かけください。森の自然学校でお待ちしております。詳しくはホームページをご覧ください。

(<http://www.jeef.or.jp/expo-nature-school/>)

【活動報告】

(二〇〇四年秋から二〇〇五年初夏)

●「山の整備・山の管理を考える座談会」開催
(十月十五日 美濃市片知 本郷公民館)

柚の杜学舎の設立の目的であり、活動の中心となる「管理放棄人工林の間伐推進」を進めるため、事務所を置く美濃市の片知地区で「山の整備・山の管理を考える座談会」を森林所有者

に呼びかけて開催しました。

座談会には、岐阜県立森林文化アカデミーの熊崎学長をはじめ、中濃森林組合、美濃市役所からも関係者の方々に出席していただきました。熊崎学長からは「地域の山の管理をどうしたらよいか。」というテーマで話題を投げかけていただき、柚の杜学舎からは、「あなたの山の健康診断をしてみませんか。」という森林診断の取り組みや森林組合からは間伐補助金制度の説明がされました。座談会では地元森林所有者の方々と、間伐をはじめとする山の整備や管理について様々な意見が交わされました。

柚の杜学舎の拠点である片知の山の整備を手がけるきっかけになる有意義な座談会でした。



「山の整備・山の管理を考える座談会」

美濃市 片知 本郷公民館

●「人工林の間伐事業」

座談会をきっかけに、美濃市片知地区の人工林のおよそ15ヘクタールの間伐診断を実施し所有者に山の手入れの提案をしました。昨年の冬から今春にかけて約10ヘクタールの間伐を完了し、今秋より新たに20ヘクタールの森林の診断と間伐によって人工林を再生する計画です。



間伐で林内に光が入る

ヒノキ人工林

間伐に取り組む

スタッフ
柚の杜学舎の柚人



●「自然体験学習」

(七月九日片生涯学習センター「子ども創造館」)

美濃市内の小学生40名の参加で、竹を使ったおもちゃ作りの体験プログラムを実施しました。スタッフには森林文化アカデミーの卒業生で家具工房「ACクラフト」を主宰する石井夫妻とアカデミーでものづくりを目指す学生さんにお手伝いをお願いしました。お昼には、竹を使って流しそうめんが盛り上がりました。子ども達は、竹笛や竹鉄砲などのおもちゃを自分の手で作って楽しみました。



竹笛づくりに
チャレンジする
子どもたち

お昼は竹をつかって
流しそうめんを
しました。



●「みの森林塾」

地域の森林ボランティアのリーダー養成のための「みの森林塾」(主催 美濃市)が開講しました。講師として、岐阜県立森林文化アカデミーの原島幹典先生と杣の杜学舎から鈴木と山中が担当することになりました。プログラムは、以下の通りです。

◇第1回(五月二十一日(土)実施)

「竹林整備の考え方と実務」



第1回 講習
美濃市 以安寺山で竹林整備

◇第2回(六月十八日(土)実施)

「広葉樹林内の景観整備の考え方と実務」



第2回 講習
美濃市 小倉山で広葉樹整備

◇第3回(七月二日(土)実施)

「里山人工林の調査と施業診断の実務」



第3回講習
午前中は座学、午後から
現場実習というのが
「みの森林塾」のスタイル

◇第4回(九月二十四日(土)実施予定)

「チェーンソーの取り扱いと里山人工林の間伐実習」

◇第5回(十月二十二日(土)実施予定)

「里山人工林の整備実習」

◇第6回(十一月二十二日(祝)実施予定)

「炭やき実習と意見交換会」

※今年度の受講者の申し込みは終了しておりますが、来年度も講習を実施する予定ですので、興味がある方は是非ご参加ください。



●各務原市山火事跡地の再生活動

七月十八日（祝）に各務原市須衛町の山火事跡地再生現場で、イオンチャーズクラブの子どもたちと植樹地の整備活動を行いました。

この現場は、県の再生活動の一環としてイオン環境財団の支援により、杜の学舎が再生整備した約5ヘクタールの植樹現場で、今回は、刈り後の現場で萌芽更新（切り株から再生）した広葉樹の萌芽整理を子どもたちと一緒にしました。

当日は、植樹地の再生の様子を森林インストラクターから説明を受け、自然の再生力に少しだけ人が手を貸してあげましよう、楽しみながら作業を行いました。



山火事跡地の再生状況の説明を受ける参加者

【その他の活動 写真アルバム】

●片知生涯学習センター 自然体験学習

(二〇〇四年八月四・五日 炭焼きにチャレンジ)



↑伏せやき窯

←ドラム缶窯



↑炭焼き博士 杉浦銀治先生も東京からかけつけてくれました。



←炭火でじっくり焼くと、格別に旨い



↑まずは、かまど・薪づくりから

←魚職人 スタッフ所君が、正しい串刺しを伝授



(二〇〇四年十二月四日 マスの塩焼きにチャレンジ)





● 県民協働の森づくりシンポジウム
● 森づくり公開講座



↑ 公開講座
下刈り機の取り扱い



↑ 上原巖先生の
森林セラピーに関する
基調講演。
←森づくりワークショップ



森づくりの
 気まぐれ指数
 100%
 コラム

梅雨が明け、本格的夏到来となりましたが、林業ではこの季節の主な仕事に「下刈り」という作業があります。植林をした後の何年か、苗木の生長を助ける為に苗木以外の草木を刈る作業をします。我々も各務原の山火事跡地の植樹地などで下刈り作業をしております。

下刈りをしている時というのは、気をつけないと大変な目に遭うことがいくつかあります。まず、最大注意点といえば、やはり「暑さ」です。ただでさえ、夏の暑い盛りに行う作業の上、植林をした跡というのは木陰を作ってくれるような木があまり生えてない場合が多く、陽射しが直撃してくる状況下での作業になります。この時期、よく話題になる「熱中症」にならないよう、水分補給をまめに行い（一日に2〜3リットルも補給します）、休息も多めにとるようにします。普通、雨降りの作業は気持ちよいものはありませんが、下刈りの時だけは雨が降らないかなと願ってしまいます。

あと、一年前のこのコーナーで山仕事には危険な生物がつきものというようになことを書きま

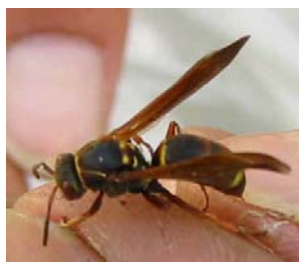
したが、下刈りでは特に「ハチ」と遭遇する確率が高いので、要注意です。私は生まれてから一昨年末までハチに刺されたことがなかったのですが、去年一度刺されて、今年は何んと二日連続で刺されてしまいました。単に気付かず巣の辺りを刈っていたらしく、ふいに刺されました。幸い、小型で、毒性の低いハチでしたので、大した症状もなくて済みましたが、スズメバチなどの大型のハチには本当に注意しなくてはなりません。一度刺されると、二回目以降刺された時、「アナフィラキシーショック」というショック症状で死に至る可能性もあります。ハチの姿を見たら、姿勢を低くして、やり過ぎないようにしましょう。

さわらぬ「ハチ」に祟りなしです。

←スズメバチ



→アシナガバチ



(山中)





杉の杜学舎 収支決算報告書 (平成14年度～平成16年度)

科目・概要	平成14年度		平成15年度		平成16年度	
	金額		金額		金額	
I 経常収入の部						
1 会費・入会金収入	218,000		100,000		95,000	
2 事業収入	2,635,500		19,077,110		8,898,559	
3 寄付金収入	23,709		431,000		22,000	
4 その他収入	100,201		14,006		16,575	
当期経常収入合計		2,977,410		19,622,116		9,032,134
II 経常支出の部						
1 事業費	2,077,914		16,280,854		7,209,994	
2 管理費	111,060		2,929,741		1,669,227	
当期経常支出合計		2,188,974		19,210,595		8,879,221
当期経常収支差額		788,436		411,521		152,913
III 当期経常外収益	941,850		1,500,000		650,000	
IV 当期経常外支出	0		2,613,525		650,000	
当期経常外収支差額		941,850		-1,113,525		0
当期収支差額		1,730,286		-702,004		152,913
前期繰越収支差額	0		1,730,286		1,028,282	
次期繰越収支差額		1,730,286		1,028,282		1,181,195
主な事業	・間伐事業		・間伐事業		・間伐事業	
	・山火事跡地の再生事業		・山火事跡地森の再生・植樹活動		・森林資源モニタリング調査事業	
	・全国植樹祭に向けた森林整備の調査研究及び実践事業		・美濃市森林景観調査事業		・環境学習ワークショップ事業	
			・小倉公園森林景観整備事業		・美濃市森林景観整備実態調査事業	

※平成14年度の事業期間は、平成14年11月1日から平成15年3月31日まで

6月24日（金）に、平成17年度定期総会が開催され、平成16年度の会計報告と平成17年度の事業計画が報告されました。また、設立当初から理事としてご活躍いただいた若月亨氏が理事を辞職することとなり、会員の西川智基氏が後任の理事として選任されましたのでご報告申し上げます。

【編集後記】

第7号の発行が大変遅れましたことをお詫びいたします。今年、6月は空梅雨で水不足が心配されましたが、7月に入ると少し雨が降り安心しました。もうすっかり梅雨が明け、夏の日差しが厳しい今日この頃です。

ところで皆さん愛知万博にはもう行かれましたか。私はまだ行っていません。最近人混みが苦手になってどうも足が向きません。そもそも万博開催には反対派でしたし、大勢の反対の声で海上の森も大規模な開発から免れたと思っています。ですから、万博に対しては少し複雑な気持ちです。海上の森へ何度も足を運んだことが、私が山の世界へ戻るきっかけにもなりました。

冒頭の記事を書いてもらった小泉さんは「森の自然学校」で活躍しています。一度覗いてみたい気がします。終わるまでに行くかどうかはまだわかりませんが、お祭りが終わった後も、人と自然が共生できるシンボルになればいいと思います。

（万博終わってもどこかで、マンモスは見られるのかなー。）

（鈴木）



これがマスタケ

マスタケというきのこをご存知ですか。上の写真はスタッフの所君が差し入れてくれたものです。おすすめの調理法は、四角く切り、小麦粉、卵、パン粉でフライにします。味は白身魚、鶏肉に近いですが、それ以上に美味でした。サルノコシカケ科のきのこなので、硬く木質化します。みみたぶくらいのやわらかさまで食用になります。所君、またお願いします。

